

〔東京特産野菜品種の育成（第2期）〕

ワケネギ系統「13」の特性

沼尻勝人・野口 貴・海保富士男  
(園芸技術科)

---

【要 約】系統「13」は、葉身および葉鞘ともに太く、葉色が濃いことから既存系統以上の品質を有する。夏季の品質低下もなく、秋冬植えでは抽苔がきわめて少ないことから、1系統による周年栽培が可能となり、複数系統の維持管理を削減できる。

---

【目 的】

2007年、春に抽苔が極めて少なく、夏季栽培で収量、品質ともに優れる系統「13」を有望系統として選抜した。本試験では、系統「13」と交配親である「在来系統」および「夏用系統」との比較栽培により有用性を評価する。

【方 法】

系統「13」（品種登録を申請予定）を2012年9月19日（秋植え）および2013年5月2日（春植え）に定植した。栽植方法は畝幅70cm、株間20cm、深さ8cmとし、白黒マルチを施した。施肥は全量基肥とし、N-P<sub>2</sub>O<sub>5</sub>-K<sub>2</sub>Oを成分量で20-24-20kg/10a施用した。対照は、秋植えでは「在来系統」、春植えでは「在来系統」および「夏用系統」とし、形質、収量などについて比較評価した。

【成果の概要】

1. 秋植え栽培における系統「13」は、「在来系統」と比べ草丈は同等であったが、軟白部となる葉鞘長は長く、葉身径および葉鞘径、1本重、分けつ数、株重は同等であった（表1）。また、抽苔がきわめて少ないことから、上物収量は「在来系統」の1.27倍となった（図1、図2）。
2. 春植え栽培の系統「13」の調整重は、「夏用系統」および「在来系統」よりも小さかったが歩留まりがよいことから上物率は最も高かった（図3）。草丈は系統「13」がコンパクトで、葉身および葉鞘は太く夏用系統より葉折れが少なかった。また、分けつは少なく株重は小さいが、葉色は「夏用系統」よりも濃く品質に優れた（表2）。
3. これまでの周年栽培では複数系統の使い分けが必要であったが、系統「13」は既存系統のすべての作型に対応できるため、1つの系統による周年栽培が可能となった。特に、秋冬植えでは系統「13」を導入することで、定植時期の前進化および収穫期の延伸化が可能となり幅広い栽培に適応することが明らかとなった（図4）。
4. まとめ：系統「13」は、都内で使用される既存系統のすべての作型に対応できることに加え、秋冬植えの定植時期の前進化および収穫期の延伸により、栽培の幅が広がる。本系統を導入することで、1系統による周年栽培が可能となり、栽培管理の省力化や低コスト化が図れる。品質は、葉身および葉鞘ともに太く、葉色が濃いことから既存系統以上であり、秋冬植えでは抽苔がきわめて少ないことから、上物収量が多い。

表1 秋植え栽培における形質(露地)

| 系統名  | 草丈<br>(cm) | 葉身長<br>(cm) | 葉鞘長<br>(cm) | 葉身径<br>(mm) | 葉鞘径<br>(mm) | 1本重<br>(g) | 分けつ数<br>(本) | 株重<br>(g) |
|------|------------|-------------|-------------|-------------|-------------|------------|-------------|-----------|
| 系統13 | 55.5       | 36.0        | 19.5        | 13.3        | 8.8         | 24.1       | 35.8        | 864       |
| 在来系統 | 52.5       | 37.3        | 15.2        | 12.8        | 9.4         | 24.6       | 39.2        | 964       |
| T検定  | n.s.       | n.s.        | **          | n.s.        | n.s.        | n.s.       | n.s.        | n.s.      |

注)2012年9月19日定植、2013年5月22日調査

\*\*および\*は、それぞれ1および5%で有意差があり、n.s.は有意性がないことを示す(n=6)



図1 秋植え栽培の在来系統および系統13  
9月19日定植、5月9日調査、各1株を解体後調整

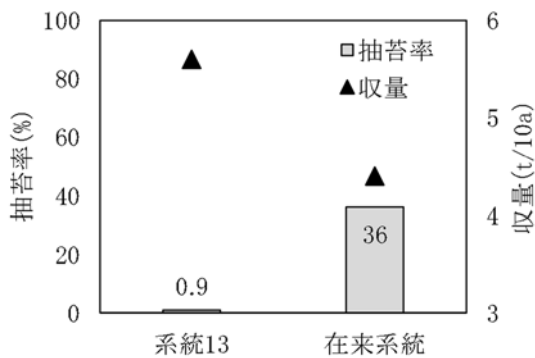


図2 秋植え栽培における抽苔率および収量  
2012年9月19日定植、2013年5月22日調査

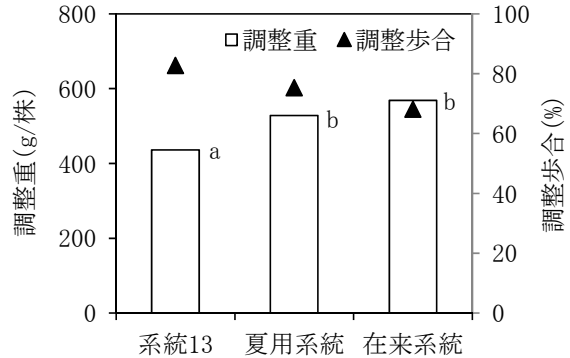


図3 春植え栽培における調整重および調整歩合  
定植日:2013年5月2日、8月28日  
Tukey法により異なる文字間には5%水準で有意差がある(n=6)

表2 春植え栽培における形質(露地)

| 系統名  | 草丈<br>(cm) | 葉身長<br>(cm) | 葉鞘長<br>(cm) | 葉身径<br>(mm) | 葉鞘径<br>(mm) | 1本重<br>(g) | 分けつ数<br>(本) | 株重<br>(g) | 葉色<br>(SPAD値) |
|------|------------|-------------|-------------|-------------|-------------|------------|-------------|-----------|---------------|
| 系統13 | 50.6 c     | 36.1 b      | 14.5 b      | 10.9 a      | 9.5 a       | 17.1 a     | 24 c        | 410 b     | 52.6 a        |
| 夏用系統 | 58.9 a     | 38.8 a      | 20.1 a      | 10.3 a      | 9.1 a       | 17.5 a     | 40 b        | 700 a     | 49.2 b        |
| 在来系統 | 54.8 b     | 39.9 a      | 14.9 b      | 7.7 b       | 7.1 b       | 9.3 b      | 73 a        | 679 a     | 44.0 c        |

2013年5月2日定植、8月28日調査

Tukey法により同一項目の異なる文字間には5%水準で有意差がある(n=6)

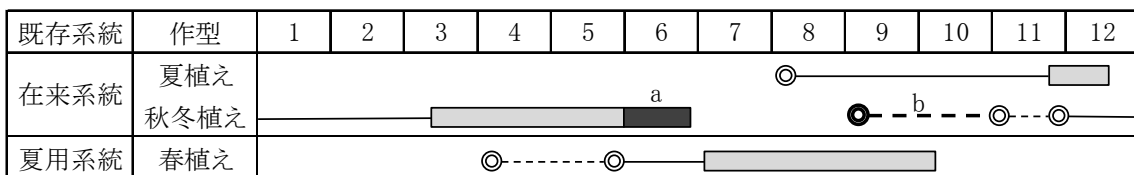


図4 系統13で栽培可能な作型例(露地栽培)  
a,b)系統13の導入で新たに適期となる期間